橘菴漫筆 二編 五

陸
6
十

イ 5
348
10上

帝国図書館
門 1
號 348
巻 10

橘養漫筆二編又月詠

小あひ雑喉 百八
本の字 百十一
流れの書画 百十二
三寸 百十四
野坡翁人 百十六
不死術 百十八
順評 百二十
蓼祭 百廿二
幸崎の松 百九
笛の料 百十一
蛇虫 百十三
我他彼此 百十五
浦屠金朱 百十七
定家卿詠 百十九
体甫滑稽 百廿一
虎のゐ渡 百廿三

明治三十六年十一月五日
坪内雄蔵氏寄贈

性根　百廿四
迫松寺文　百廿六
加持　百廿八
音訓　百三十
随縁信法　百三十
瞋　百廿五
肉　百廿七
翅　百廿九
緑　百廿九
塗　百廿九
普通の下句　百三十一

文教

擔唐漫筆二篇又

田仲宣編

東京帝国大学附属図書館蔵

京都大坂などの雑煮とつくるのを小鮎このこ
ひしこに鰯のようなるものを少しあいとこるやらんと他
身類にかはしなどを記とゝゝに居彼の国より帝を
私にふせなり送りなするに敵のいやしまんとを忍れて相
物の下に隠しなりて地の方に送りなるほど書と仕相物を
浪華の新勅撰と敗く埋奥のとゝるとと知るゝ笠とんだれで
細奥の埋引く小相物とこゝる略語なるべし

(夏)江戸幸橋の松は現在のものは比良ヶ嶽の小松と云なり出来て樹〻松なるよりして漸三百年餘〻なる松なりとて称幸橋の松と賞ぜらるる三本ありと記張るもいろいろとやや上板本実人清水を別よりも伝えたるべし花筵の花筵を敷たるべし

(夏)本高浦なりと焦氏筆乗に本の字の俗字なりて本に従をうれば左もいろべし

かるべきうかとおぼ浦をアザムク或はヲコタルと訓字なれば対し書肆の叢薮などに本の字を書事はいづれならん

欺瞞などいろいろかるべし書をものむ人をもとめるに書に

る程の人の不学繁とぞ

(夏)河内交野郡拓提村の名の発は知る人なりいとも雅

よくてせて面ふき人なり或は浪華より帰るとも

なるはなる和尚の基と同伴して陸られ通して右同村と云

家と通られた田家の屋根と菅茅居にあり其中に蝶

牛のいと程や有りちんたるのおのことかれて笛とぬるる

人なれど其いとの義よ竹を不やしられどそこの家のいとくは

竹出来をなるに定て笛の科をやせんとの事なるべし竹を切

ろづみうよ雄作うてさくらんぐ用ようえぐさく雄作ならほ
かぐさきんぐ足れうをを自若ちうて作くき彼は彼の人を
慨然と弱られたまぐてをもんは作らざられこまれうれろ
所よかいどの事ぬるる義もいうんんよしと法くゃされき
されぐ言をん人をるるとれい事我よ失く容をん人をるる
るれい滅月よ失といるれ教ようぐ名れ人をんは作みぐき
事にくて

(夏)人の持る間度て其人の心を知ることを為ないえう
夏邪氏氏他人芸村ぐ書画をたよ教事法いるれとえ

ことを知ぐ古人の書画をおることいれ其人の法を称くゆよ
其能を学氏ま芸村い父祖の家業を破敗く身を洒く
落くの域よ墨く神佛聖賢の教よをざう名を法て信
をうく逸氏るうまされるく境界ちぐら其降町氏作世
東都の建源佛を木も能も彼屋に秀て芸村と同じ
うして法る法よあくぐうるを例の多ひりの答つんとを病ぐ
類よ高金をん求む事と貴教るる人のをとを為ないうぐんと
んや

(夏)蚘虫とうぐぼうて其汁と病瘡て貝よ果の入るに用ゆて

治せばとゝ事は予嘗試て効を得たり其後こゝ
七十日ゝて治せばとゝやく人〻の孫猶ゝ痛ゝのいや
ときすゝく眼耳鼻ゝ口ゝとゝなきむ〻ゝ苦ゝ切ゝとゝ
あゝんとゝて毒ゝて苦ゝて苦ゝ苦ゝ世ゝとゝとゝや

(蓋)酒ゝ本朝ゝてゝきゝと称ゝとゝるきゝとゝ前漢書の
食貨志ゝ酒ゝ寒気退三すゝとゝ

(裏五)人の強意に論ゝるゝとゝかゝゝとゝいゝゝ法義の玄義に
我他彼此ゝとゝ

(裏)他流の蕉門の流ゝ附合の体ゝ備ゝるゝ野坡ゝ人の両

人ゝ功者ゝとゝ此ゝ人の体ゝ学ゝ上ゝとゝやゝなゝ世ゝ一世
のゝゝ名ゝ吟ゝの附合ゝ野坡ゝ人ゝ達ゝ人ゝ達ゝ人ゝ達ゝ人ゝ達ゝ
ゝ両人の風体ゝ上ゝとゝ世ゝ人ゝもゝゝゝゝゝゝゝ今の蕉門の
他流ゝとゝゝゝゝゝ己ゝ他ゝ流ゝあゝゝゝ

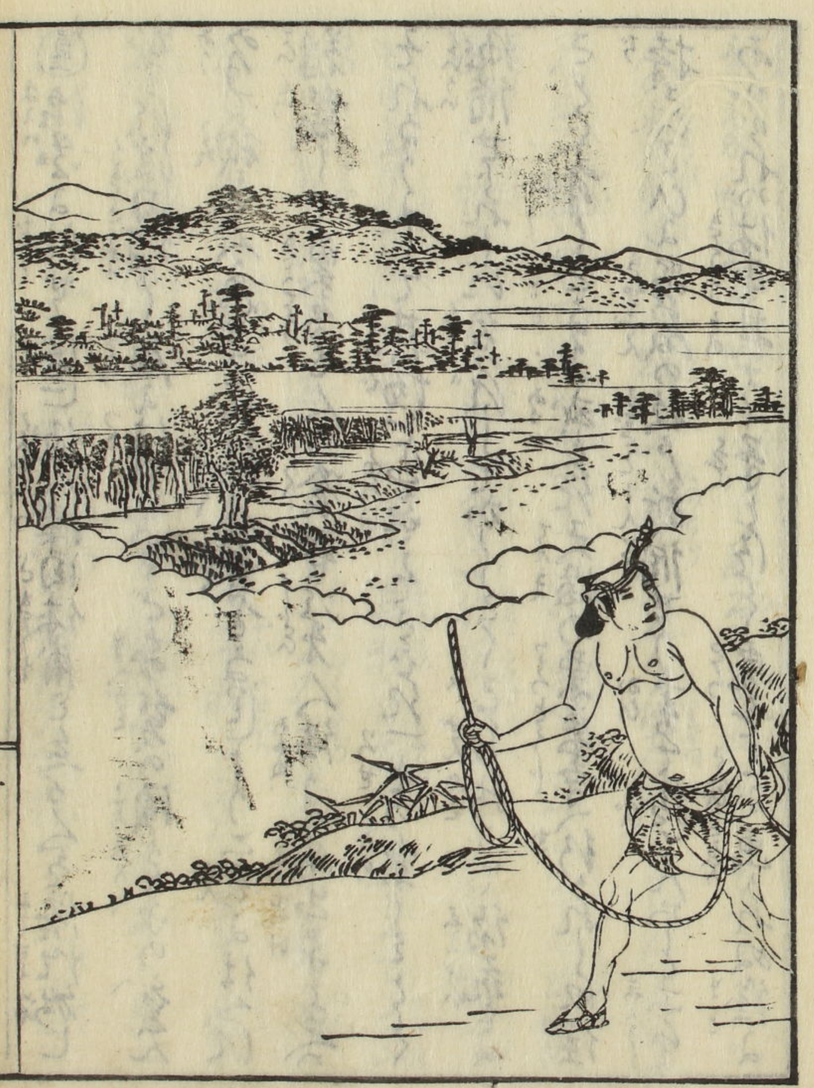
(裏)筆晴雨談云ゝ人間ゝゝゝゝ浅屠氏ゝ刃ゝ殺ゝ猟ゝ漁ゝ
ゝ行ゝゝ必ゝ金糸ゝ弾ゝ費ゝ土木ゝ義ゝ耀ゝゝゝ苦ゝゝ
小人の性ゝ貪ゝ欲ゝ希ゝ極ゝ侈ゝゝゝゝゝゝ飛ゝ其ゝ
心ゝ記ゝ事ゝ上ゝゝ

(裏)冷斎夜話ゝ孔義ゝゝゝゝ昔ゝ方ゝ不ゝ死ゝ術ゝ

行人あり。と申す。或人これを学ばんとなん。度々参ず。
行しに若をる。おのれよりは不孔の術を行人先生死去せりとも
て。人よりは教き今かし。遅して先生存命の間より不孔の
術を学ばざりしと悔しとや思ひ。佛法受学人
して其真と偽と相分ぬ。佛法の伝如も孔も禍福共
差別目を地獄天堂の偽と知りて是に或人第一の
といへり

(亮)俗諺者流寂しいと云処と喻といふる所
市中交易の域より物の寂しと絵の
しむそれ定家の卿衰えさひ〳〵云生では光角にて
人をるやう目出度和歌ならまとて絵の人
花ん人とよそふひ東かさうるさくられもれていて絵人
とをんら作るとやや光廣の卿も面白ぶらに人気
と絵作しとるう

(冥)選ハ作よりも強〳〵とやや又関の机上の巻と掛人と云
よういそういうるまび順序とやや初人の人の他の句と批新
もるや干鱗が唐詩の選を絵やや作よりも強〳〵と人を
こまと称とまど他の句の点絵を怪るべきとやう



夏 浴室に住せし僧人津田休甫こゝろゝ人を信仰然し
かるに浴室何ゞ厩に住つゝいまだお髮の須臾の変へ
みすて我を人のかぎりに浴室の身となるこゝろに住べ
別髮して奥ゐも人の答を汚す人信りて住出れとゝへ
それるゝまして其場と出家をさゝれ一世の楽ゝとゝく
仏道せられしに召るゝてかゝることゝ行て義に
さとくみるゝとまう或天満の栗東寺へ行られし住
持さいとひに客殿の板戸新調せう書て給てんやと所望
ありられば休甫其まゝ承とたゝく虎を之迷惑れぬ條に

幸象向上まう物に拘らぬ事をとめうとてこの法
人の業見せゝゞ或人に氏虎かゝろう協ひなるゞようゝゝ
ゝれ也べ舞をゝて律義ゝとうとい生せうなに事ゝる休甫に
世事を語りまれで出まに寺に行板戸の片をゝる毛也
とゝ事書添かれゝとまう其物に希せられさるとめ氏
夜の法をくのゞら迷れに住をまう夕ゝにあいくゝ之ゝ法に
なゝれゝ也べ牧方ようるうて常住に之ゝ其まゝ私の
本にかけ至九保ゝ也ゝ食法のえに帰ゝ用と
勿て降れゝとまう未其須を知て大阪場の石に字迷も

さうしにくらべや有時場の連中より百顔一巻あり四巻
懐紙の徳元体甫の句に点を新入社をく中に帰ってゐる由え
冥土に及びしに長点九十三点までかゝられ是ば
連中大笑ひよう行こびさてを和尚に師匠すゝひへ
出来ぬ句のそとへさそこそこてつ遠連中打ちをてし
場の発句屋胴りの大分れ有体甫の方へ来られ百顔
の大分点をかゝらもて点の沙礼に来てこるはやされば
体甫自名と手をまて青物和しゝ其巻ハ子ぬぐくて
何ともならぬ由へ行場ようこるひかと消しこう消ぬ

句二三句も沙汰よ有ら及と事もうげよ苦くられしこそや
(百三) 蓑笠ふる天下泰平の沙神笠ふるしも久しく乞礼の
後退転せしに照代よりの御年長あり其時古例の舊紀
紛失してふ沙汰なりしに京都四条通立賣東へ町沙木
氏七郎右馬弓制屋と云る人往古蓑笠の重宝物と
家義したりしと上よ召されて再び奥浪せられ是とうり沙
木氏へも数の保給りしとそ人其末裔七郎右馬弓居て
栄次と義名せられ人の初めのと紀知る人なり
(百三) 虎の子渡しこそ事世話し紀商賈の工面をいそうぐ

なるてやといつゝかしに清士ゑ虎ありてゑこ疋りてゝ
ゑゝ疋の虎ゑの悪虎ゑて毋の虎の居ざれで狩る二疋のゑを喰
いんとゝ有ゑ毋虎これとゝ有て源氏川を渡らんとゝるとゝ
ゑゝ疋でゑを渡ゝゑゑ非ゑゝ疋い悪虎のゑゑ喰るゑて
毋虎二風〳〵て出ゑゝ疋の悪虎を川向ひへゝ渡ゑまゝこ
ゑゝ疋ゑを約て彼悪虎ゑとまゝこゑまゝ有る川のお渡に
虎ゑゝ疋ゑくゝれゝ狩ゑ彼悪虎ゑとえの岸ゑ狩〳〵て
狩る虎ゑを川向へ渡〳〵ゆゝ戻りて狩ゑ悪虎ゑを渡
ゝ〳〵狩る二虎ゑ悪臣ゝ渡りてゑを狩ゝゝれゝゑ渡て

東京帝国大学附属図書館蔵

三疋を渡ゝゝれ虎の類といえど其才ゑくゝれゝゝれゝ虎
のゑ渡〳〵ゝゝ云て

(夏目) 近世〳〵ゆゝ孫と云事ゝゝ性根と云箱ゝゝれゝゑ
ゑゝゝ掃ゑゝ深〳〵事なゝゝ年のいえゝゝゑ有ゝ
按ゝゝゑゑゝ紀ゝゆゝ〳〵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ恐執念と
執念ゝゝと云ゝゝゝゝゝゝ尾上菊五郎といえゝゝ俳優東郷
ゝゝ帰ゝて性根と云事ゝ氣中にて出て出ゝゝゝ
(夏目) 暖なゝゝゝ大坂の信ぬ〳〵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゑ有ゝゝゝ人の姫ゑゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

暖い俗語ぞうこもぬくめどりと漢いろ〳〵かるまゝ

類聚文雅問

元氏ゆる奢るの一表れぬくあとうとゝみけ公も情るゝ

（夏八）近松門左衛門本名平山越の産まれて官吏よりて浪人して

劇場の文を作り名人の名をひろう或と紀伊国屋の幸兵

ゞ奢る記るゝ云の市姿と業しのち餘をゝ流して例乃

劇文を作まう生居王竹田ふ出雲犯云の節をおりひ付て

門左衛つをとる種積以貫生も其帯に居られゝゞ

脇く作文をる円金の冠をぬだろうと書して芸を止め抜も

孫文に及びぬ明るのとゝ門左衛つを咏もう孫文に世をゝ

小出雲ひとり牧厨文ぬゝして信ゝに抜く門左が例のぬ文

弩紀ゝなり俳金の冠をぬだろうとゝ所人の事蹟ゝて

粗云侍語ゝう基をぬゝる墨書直さ世ゝゝと小

出雲ヤクるゝ以世をゝのいえるいうゝぬゝるやけきゝ云ゝ

宝る門左ゝ笠あゝべゝと奉ゝ世るゝ墨口門左衛本ゝく

ゝべの孫をかゝんと金の冠をぬだろう積い持病にあゝと

かやと儲ゝれゝで両人い慨然ゝ

（夏九）近成式ゝ西陽雑俎云魏の明帝凌雲臺を建い高

き事数十丈ゝう則章誕ゝ頭を向ゝせゝ如ゝう然ゝに

人有て屐をはくゆう尾上を歩事化と踐ふ矣ならば
明帝怪く是を殺ふに腹下に両の肉翅あり長さ数寸と
いふ隆成武を唐朝の一人なり曹魏と去ること遠きをもって
去るに臨る寄呉の事行るせるし夫翅有りのは四肢をもって
四肢有りのは翅なきは天二物を備ざる造化の常にして人に於
て翅有べき理なし清士の人を誠らしれ偽をいふ事上古
なり寓言なるべしてもの沢の説るべし隆成武をもって
其証とや

(裏)神道行事を修とる人称して神道者と云別に神道

といふ名きゝ下ざるの元拙く屋敷事有とも不見神道を
本朝の公道として神道とさへ恐るべし武の御設と
そこなふ神道とは今の行事家に神孫者と云て称る
べきは其神ね者の神前に向ひく云上雲法非道加持とい
えることを唱へ加ふ佛の三恵持を行者の三業と云唯一
ふくといえる神孫者の佛法を紳ふに向るもをもし

(裏九)抑法と云法に有りぬれて打うげきとうえるへんぬる鳥
帽子の事といふるべし

(裏十)本朝の古云に云ひて僕をほめて僕を例にかゆると

うり訓義の附ざるの菓蝶よりも戎拾拔菓なるとこ
ろ〳〵微景舎をきげいさ弘微敬とこきでん東洞院西洞院とひが
しのとゐふ〳〵のとゐ勘解由小路とかでの小路迄清とこのゑ
挙て数べうこゞ生物識の人の東洞院なるゞ改名て本邦の古
義に見へざれ共人へ知くのでゝ〳〵清土を雅と〳〵本朝と
俗とをるの名遠先生へ論なゝ豈国有ゝ道なき処や有る
孔夫子も夷狄も君有備其なきよへ不如とうやゝ〳〵て自
出の国る本邦の功績とや国学を学ばゞゝて清土斗乃
見聞をるへ浪く見ざる嫌なりと雖義をる国漢に等しく

皮きうなゝに無居てゝれこつゝ小児のごゝ
(嘉) 山陵の家猶へ佐く木隆成孫同義清が末孫ゝて志那
弥三郎範重と云人なり薪の酬恩庵に行て一休禅師ゝ禄
法を学び和尚選化の後山陵に隠居せゞ成戒と紀道遥院宅隠
公の法名へ号られ物語り給し道遥院の作におよて昔
より何人の学ても上の句とゝ冷ゞて下の句とをぐれ共一句と
て何事の学ても附るあり

とゝえるぶつはむゝなりうり

代句と下の句ととれいいやゝの上の句をゝうても学ぶ

仰られ給まゝ宮ふ温ゆ給もあへぬ程の手ふる紀の上の方の
はゝとて拾びて相模と某ゞ聞きへゆ〜紀のうは
さまをはそもか社のわ〜さよ
式下の白とをとて右の上の白に續ぎたへ給ふの手うる
おゝ慈いそ〜いとゆ上られれば実俗ふと奥じさせ給ひ
とゝのり式ひも人くいうるとゝるゞう作者を見し人を思
式條藤行定の手紀に有とや

夏三 むゝいみ〜紀冨紀る人あり甚女にきふなて貧〜紀人の
うゝ〜ゞ先門茅屋隣を思てむ住す〜かり紀ゆゝ貧

紀人度く助力とゝ〜へ甚度〜式福人多心とゆ〜ゞ後の八
大〜国ゝ〜より実の答牆となりて親族とも拾はせび
明友とも恵ゆび且多るに貧極のそ〜碗ゞて紀をゝ〜ちゞの
黄金を触ゝ友の負〜紀人も今を拾とゝ〜ゝく住ゆ去
ゞて兎角をれども〜いよ〜負〜止事を切ぞゝ〜ゝ〜ゞ
と徳ゆんゞ〜ゝ〜ゝ〜ゝを使とて甚東に有も〜ゞ之の中の有様
ゝて見ゝ非ゆきゆのゝて〜僕ゞて紀清るゆのゝ〜ゝ〜貧し
見下のゞと紀ゆ〜る人〜紀ゆゝと書ゆ〜ゝれば福者いゝぐ
おゆひ感ゞゆん彼女人を大〜ゆゝ〜ゝ身を立る行のゝを

して天下世親族を撫ぜ貧民を拯育し大なる仁恩を施し朱友人止事を示る書し文章ゆ人を勧し仁恕に帰せしむ医薬を積先り豊陽報なくてやまざるべん

仕人も大なる富を造手の賜やぐ人倍りくふせしとるべん

橘菴漫筆二編五大尾

東都葛飾戴斗画

花鳥画傳

初篇 二篇 全二冊

此書を花鳥草木其他何れとかく辨ずれば画を毎に多の雅兒ちなみと需ずく画法をるべく重宝の画手本なり

一勇齋國芳画

一勇画譜

全一冊

國芳多年九工夫を凝らし新奇物柴の景を画儒の数と雲仏の美ひやして世ふ移るる画本なり

北齋爲一老人画

繪手本水滸画傳

全一冊

此画い画牧老人の筆にて水滸伝一百八人乃者係と丹精凝細筆を尽画手本第一書なり

柳川前重信画

繪手本水滸画傳

全二冊

此画八幡の柳川先生筆にて水滸伝一百八人乃英雄を景ひ〻〻尽おのくを其人に附て寸掌れ敵画と婦る人の仮なり〻〻

葛飾戴斗画

英雄圖會

全一冊

此書ハ本朝英雄良將名士の省像ト昔佩刀人細筆ニ画ユセ〻ヨとれ〻ふ小伝付人〻くゝれど備君ヲ求ク上絶しあへべし

一勇齋國芳画

三國英勇画傳

全一冊

あるハ呉魏蜀三國ハその名字ハ英雄ト雖ども〻ハ小伝ト附シて壹冊ハ勢ひ乏ぬ寺但一名ハ一雪斎ガ筆力ト擬ひれバ其一元人ガ水滸画伝ハもとゝく劣らぬ見るまめがれぬる紙之

同画

忠臣銘々画傳

全一冊

此書ハ赤穂の義士四十七個忠の実伝ト挙て國芳大人省像画ヨ学れバ求くれ給ふべく

溪齋英泉画

畫本錦之嚢

葛飾戴斗画　全一冊

此本ハ金沢洞徹象眼彫物・陶器・塔・宮殿の彫物・振袖・搭・笄・煙草・煙管・花布・糊蓋・上絵・漆物・形・蒔画その外法職よりハ〻ハ景絵・山水・人物・花鳥・虫魚ホり〻ハ〻ハ巧の写生ヒとゝ〻ひる方家大ヨ益ある絵手本ヨり

萬職圖考

初篇二篇三篇四篇五篇　全五冊

大阪書林　河内屋茂兵衛　梓

新刻増補

萬代早引節用集大成

真字附　全二冊

節用集の善本數板ヲ世ニ便利成支譬ヲ小物ハ雖然ヲ〻ハ〻常用ハ文字不足ヒのりて隔皆撥辞ハ遺憾少ハ此度宮田先生丹誠苦心乃功ト積ク其不足雅俗乃文字ハ輯録ー尚諸人日用の支ヲ數多増加新板大成ハ倣端君必堅右ヨ置ヲ以高覧ヲ給ん支ハ希而已

○蘭葉摺出来仕居ハ間違用向奉希上作

増修

續王代一覽

正編　北五冊　初帙十冊

此書ハ人皇二百八代後陽成院天皇天正十五年ノ一百九代後水尾院天皇元和二年迄三十年ハ間の治亂支政乃沿革名人達士詩歌連俳香茶名僧知識の傳記神社佛閣の奥屋金銀米銭ハ差分〻〻〻紀ヲ隔ヒとヲ形ー但原書ハ出所ハ挙ぎ〻ハ柳菴先生盡く其本書ハ引紀ーのヲ一度一句ヲ胡乱乃あヲ改ハ庵右ヲ一考古の小史ヨ〻〻續編ハ元和三年ヨりヤ知ヒー

開巻驚奇俠客傳第五集 全冊

此書第四集四十回まぞハ故曲亭翁の作にして善く世ふ知処なり然るふ曲亭翁物故せ〻ふ〻ふして竟ゐ結局ふ至らず依て浪華の蒹亭翁其篇を續て第五集四十一回より第六集五冊と五集五冊此ものゝ刊行を六集を既脱稿せ〻ふれも近ゐ世ふ著らゞ〻希くハ四方の君子ふ替られ高評ふ賜へとて

甲陽軍鑑 合巻拾冊

名甚田全書ものゝ信玄公御一代の戦功蹟を記し陣営兵伍の軍略を著し本邦第一の兵書と称ふべき佳編なり

右の書初編六帙四冊後帙四冊を山東京傳翁の編輯ふして周く世上ふ流布し尤面白き物ふして俗人ふ称せらるゝふ結局ふ至らず依て浪華の蒹亭翁其篇を續て第五集四十一回より第六集五冊と五集五冊此ものゝ刊行を六集を既脱稿せ〻ふれも近ゐ世ふ著らゞ〻希くハ四方の君子ふ替られ高評ふ賜へとて

善賀安方忠義傳

作者物故せ〻ふ〻ふして青官甚惜しむ依て此度松亭金水先生ふ編五冊ふ繼り出さるゝと雖行して遺憾の人多者せ〻ふ〻ふ希くハ四方の君子ふ篇ふ替〻ふ高評を賜へ〻ふ〻ふ次編ふ年ふ刷出して全部ふ至ふ〻ふ妻遠国ふ云

浪華書肆 群玉堂主人誌

釋尊御一代記圖會 全部六冊

山田意齋叟参考
前北齋老人圖画

釋迦如来の御父浄飯大王の御即位と霞端〻〻憍曇彌摩耶西夫人の内如来摩耶夫人の胎内ふ生と託〻〻事憍曇彌夫人摩耶と娶て胎内の王子の出生ふ妊娠と道師ふ呪詛せ〻〻むる條如来夢中ふ説法ふ母の子息と繁の〻〻夷浄飯王藍毘尼園ふ花の宴と催〻〻〻〻悉達太子誕生の奇瑞悉達太子御幼稚より菩提心と発〻〻〻〻謂釈迦提婆遺恨の始末遊太子宮中ふ出て檀特雪山ふ難行〻〻〻〻正覚成道〻て出山〻衆生と濟度夷迦葉舎利弗目蓮及諸羅漢佛弟〻成和解耶愉陀羅女の貞心提婆が十悪須達月蓋西長者の信心流離王の暴悪釈尊御入滅五神神力涅槃像の欠ものゝ都て如来御一代の事と記〻圖と加へ雖古讃本也

浪花　好華堂主人著編

大伴金道忠孝圖會

前篇五冊　後篇五冊

此書八天智天皇の御宇に百濟國の緩の兵と遣唐使と戰ひ大伴直鳥兄と云ふ家國を押領せし奸悪大友白王子淨見原天皇と御合戰の次第金道の生涯白虫大鳥の忠義雅明ぐ義心真鳥の奉仕金道万苦を凌て文乃代と復一本領を安堵せし迄の奇異と洩さず記せり実録にて勿論大いに補加へ善と勸め悪と懲と便りとも面白く新本也

同上

扶桑皇統記圖會

前篇六冊　後篇七冊

此書は人皇四十代天武天皇の御治世より六十代醍醐天皇の御宇迄の公事の根元宮殿寺社の草創代々の人物の行条と紀と所謂役行者安部仲丸吉備大臣衣通姫光明皇后良弁僧正弓削道鏡恵見押勝中將姫傳教大師弘法大師田村丸浦嶋子小野篁在原行平業平小野小町僧正遍照菅丞相其外古人の実傳を探り精く輯録し悉く國画を加へ重宮の書く

六樹園大人著

都乃手姫り　全一冊

江戸を離れて絶えなんとする北の中も俳諧古雨亭にしあれば其ありさま所和文にて記るゲゲくふうまもる名文なり

徳齊原先生著

先哲像傳　全四冊

先哲名家の多く事蹟のまた省像の傳もろ〳〵弄りたまく文人の省像に對るは時代なり逢人にて其人の德も想像ろことあり此編は学者書家を始め閑人雜技に至るまで由来正しく省像と真跡を集め各小傳をそへり

新著門集　全十冊

此書は古くより世に行はれる家紙にして其中に古人の実録を集む

山崎美成大人著

名家畧傳　全四冊

先哲叢談近世畸人傳よりもみる世に名高きことえ〳〵篤行の学士限遠乃文人にて其人の言行を集録せし書なり

淡洲樓焉馬大人評

開卷百笑　全二冊

此書は焉馬大人の集る処奇談
物語する人々皆此物語を録し
作て老若男女大小ともに安記
ふくふるはけうをたまび長四紙
消し七夜の宴席を志ぐるもの
は上もなく一書に実ふ是を開き
こんれを見ふ笑を催ふ面白き
巌格の人々も絶倒せざる
なきも一統して冗巻百笑を
談るれ虚なれを知り玉ふ

心斎橋通博労町角
浪華書房

松亭金水著

大平樂皇國性質　全二冊

此書は儒者と俳者の説れ異
なる事を説ひめ古今
風俗の変化あるひを神社ふ
繋ひ給ふ俗ふ云ふ
説成ひ中ぞんじ三味線琴
説豪富貴士を悔る夫婦喧嘩
やなるひ中ひの唄云その外
挙てうぐ何これとなく雑説
れるふ説を作ける孫書なり

東都川關先生著

早引人物故事　全部二冊

此書ハ本朝の昔より近世ふ名将勇士
ひめ侍哥連歌俳諧の達人風流俳優名妓
なるまで世ふ名ある人を集めその伝説
時代をまびくふ挙げいろはかるて又
安く記し故人を捜索る便ふ体なるもの

同　誹林沾凉大人著

近代世事談

全部五冊合巻三冊
後篇近刻

此書ハ東山殿より末吳服食菜草木花菓器財
万物近代集新古年暦諸流書画侍歌連俳香茶生花
技芸及び世居ふの起原人倫雑事年中行司
故実ふハ何の頃より初まりしふと委くひげ
たまび机右ふ記て博識乃捷径ともる此奇書之

一名萬金産業袋

町家萬寶

商賣仕法大成

全部六冊
合巻三冊

此書ハ諸職ハ秘密奥儀ふ云るまで委く
あ〳〵形ハ図ふ明ら〳〵ふ〳〵ふ〳〵先ふ外諸
国乃産物ひ中ふ天ふ〳〵〳〵〳〵〳〵
備ふ商の重宝と形しるの此書ふ
〳〵れるふ後篇ふ〳〵〳〵〳〵出

手嶋堵菴先生述

女訓姿見 **女前訓躾種** 繪入 全一冊

此書八女子七才より教ゆべき事ども第一に成長て孝行貞操の道を失ひ質素節倹を守り礼儀を正しくし諸一諸礼の式祝法年忌賀安盃事と言書衣服飾ぶる心法世外女一代金言十事数ヶ条を先生係繪入を別に一の長年の著述せし書

鎌田柳弘先生作

心學五則 全壹冊

人倫の正路として持敬積仁知命致知長者の五則おのれも学ばざれば是を知ることなく敬ま先生の則の人なれば主一なる和解児童に附ひ易き為に仮名を以て仁義の道を説き自己修身後に係ひ立身出世なる為に教訓せれ世上無学の長年の書を

六樹園大人譯 前篇六冊 後篇六冊

通俗排悶録 溪斎英泉画

浪速書肆 心斎橋通博労町角 **河内屋茂兵衛藏版**

書林

京都寺町通佛光寺 河内屋藤四郎
江戸日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛
同 貳丁目 山城屋佐兵衛
同 貳丁目 須原屋新兵衛
同 四日市 山城屋政吉
同 本石町十軒店 英大助
同 下谷御成道 英文藏
同 大傳馬町貳丁目 丁子屋平兵衛
同 芝神明前 岡田屋嘉七
大阪心斎橋筋本町角 河内屋藤兵衛
大阪心斎橋筋博労町角 河内屋茂兵衛